

天主閣

だより

マキキ聖城キリスト教会



「神様がかけてくださる虹」

マキキ聖城キリスト教会牧師 黒田 朔

「虹の街、ホノルル」聞くにしても、語るにしても、いい響きです。「へえ？そうだったのですか。わたし、虹を見なかった。」と空港への途中で残念がついている時に、目の前に大きな虹が出たりしますと「ホラ、ね！」とまるで自分が虹をかけたようにうれしくなります。

マキキ教会にはレインボー・コネクションという「交流を通してキリストの素晴らしさを分かち合うプログラム」があります。二〇〇四年に創立百周年を記念に始められ、毎年高知からは約二十名の学生達がマキキ教会を訪ね、マキキ教会からも今年の六月には十名ほどの学生が高知を訪ねます。若者ばかりではありません。高知のフラ・スクールの生徒さん、老人大学の元気なシニア達、JA婦人部、看護学校研修グループまで、そして、マキキ教会からはシニア・アンバサダーも高知を訪ねます。このように、レインボー・コネクションは、まさに、ハワイの高知城であるマキキと本家である高知の高知城との間に神様がかけてくださった大きな虹の架け橋です。

でも、三〇年前、こんなことが起こるとは誰も考えていませんでした。ハワイの日本語伝道は一世の高齢化と共にやがて消え去るものと考えていたからです。

「いつも風に耳を傾けて、落ち着いて待つ。」これはウインド・サーファーとして八年間、日本代表としてワールドカップに出場した飯島夏樹さんの書き残したことです。彼が人並みはずれた成果を残せたのは長年の訓練の結果、「いつも風に耳を傾けて、落ち着いて待つ。」事が一番だと知ったと言うのです。

私達もそうです。個人としても、教会としても、良い実を結ぼうとするならば、まじめで熱心であることは勿論大切ですが、注意深く神様が送っておられる風を見分け、どのように世の変化の波に乗るかを決断して実行することが大切です。

今日、私達がクリスチャンとなり、「お城の教会」マキキ教会を楽しんでおられるのは、今から一〇〇年前、奥村多喜衛牧師と一世の皆さんが日本人コミュニティの必要に注意を払い、お城の会堂を建て、二世を育て、宣教師を日本に送り、忠実に働きを続けてくださった結果です。しかし、時代も世界も変わりました。かつては二週間かかったハワイ航路も、今は、ジェットで六、七時間。毎日四千人を越える日本人観光客がハワイにやってきました。今、この時代を任されている私達として、地元ホノルルから世界に神の愛とご支配を伝えていくために必要は何か、何が出来るかに注意し、決断して、始めたレインボー・コネクションは神様が送ってくださった風をしつかりつかんで、波の上を走り始め、マキキ教会と高知で実を結び始めています。

今月、高知から高校生、大学生がマキキ教会を訪ねます。大学生は五年前に始めてマキキ教会を訪ねた高校生たちの再訪問。土佐教会の成田牧師と四人のチームは教会として初めての訪問です。土佐教会はかつて奥村多喜衛牧師が出席した教会です。六月には日英両語ミニストリーから夫々四人ずつの高校生が第三回アンバサダーチームとして高知を訪ねます。

空にかかる虹を楽しみながら、神様の働きに期待し、笑顔で皆さんを迎え、祈りを持ってアンバサダーを送りましょう。

「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」
(伝道者の書十一章一節)



テリーさんの簡単クッキング

蒸しナスの棒々鶏ソース

ハワイでも作られているナス、おいしいですね。今回は棒々鶏ソースであえますが、このソースは万能です。

作りおきをして冷蔵庫に保存すれば、お肉にかけても野菜にかけてもGOOD!!

<材料> 4人分
ナス6個、鶏むね肉2~3枚(塩&こしょうをして酒を少々ふり、皿にのせ10分蒸し、細かく裂く)
青ねぎ10センチ

[棒々鶏ソース]
しょうゆ大さじ5、白すりごま大さじ2、砂糖&酢
小さじ2、ごま油大1&1/2、赤みそ小さじ1、しょうが1かけみじん切り、赤とうがらし1本

<作り方>
① ナスは洗って丸ごと、熱くなった蒸器に入れ12~15分蒸す。
② 熱いうちに1本を3切れに大きく斜めに切る。
③ 皿の外側にナスを並べ、中央に鶏肉を

ドクター小林のひとりごと...

ダビデは主の前で、力の限り踊った。第二サムエル記六章十四節

これはダビデが契約の箱の前で踊って賛美したところの記載です。この為、奥さんから恥ずかしいと苦情を言われてしまいました。しかし、主は恥も外見も顧みず主を賛美した、ダビデを愛されたのです。

先日、日野原先生がマキキ教会に来られた際、全員で賛美していると、突然、日野原先生が賛美チームに加わり、マイクを手に、片手を上げながら踊って賛美されました。どんな言葉より、一回の賛美で、日野原先生が何を信じているのかを雄弁に示しました。踊りながら賛美をする。なんて楽しい信仰でしょう。この先生が毎週マキキに来られるなら、必ずや賛美チームに加われると思います。道理で百歳まで生きる訳です。百歳にして踊りながら主を賛美する・・・だとしたら百歳以下の「若い」私たちはどんなにか、賛美するべきでしょう。励まされた光景でした。

今月の証

「奇跡」

玉寄 朝勝

私は二〇〇七年十月のリバイバル・ミッシヨンの翌日から教会の礼拝に参列をはじめました。

最初の頃は、教会で一時間座っている事が苦痛で、「時間が長いな」と先生のメッセージを聞いている間、外から聞こえる鶏の鳴き声を数えたり、口を開けなくても出来る、あくびの練習をしたりしていました。外は大雨でも「ハレルヤ!」。主は道をつくられた」という賛美の歌詞には、「主って土木関係の仕事?」。コアウツドの器をもってお金を集めに来られるは、メッセージの話は、エペソかデベソかわからない。

しかし教会での一時間の礼拝は、何十年も板前として働く事だけに時間を費やしていた私にとっては、なにもしない(できない?)ゆっくりとしたひと時であることは確かでした。また当時付き合っていた妻は、私が礼拝に来ていることで満足しているように見えたので、彼女に捨てられないように、後ろからそっとくっついて礼拝にぐる日々が続きました。そのうち、教会の方々と話をしたり、祈りを聞いているうちに、少しずつ心が溶かされていきました。

特に黒田先生の一举一動には感動しました。妻との仲人役でもあった義父が急死し、家族が日本に帰国してしまい呆然としている時、先生は何度も電話をくれました。「朝勝さん、店に行っていていいですか?」。断る理由もなく店で待っていると、黒田先生が「今

頃日本では葬儀がはじまる頃です。祈りましょう。」と心から義父と家族、また葬儀のために祈って下さる姿には心が熱くなりました。

その間にも多くの出会いがありました。音楽で賛美をする高瀬夫妻の情熱、先生の留守中、メッセージをして下さった米内牧師、栗原牧師、「心に光を」ラジオ番組のなかでお話をしてくださる先生方、またその中に登場するお一人お一人。そんな出会いのなか、「死んだ人が蘇る」というイエス・キリストのメッセージを「そんなバカな!」と聞いていた自分が、だんだん「そんなことも神様だったらあるかもしれない」という心に変えられていきました。

二〇一〇年十二月十九日、大雨の中、多くの兄弟と共に受洗にあずかることができました。

以前は大酒のみで、仕事でも緊張とストレスからか、時間がくると自然にビールへと手がのびていました。今年になって仕事中にトラブルが重なり、落ち込んでいたその時、「そうだ。洗礼を受ける前は準備クラスで学びをしていたのに、最近祈ってもいけないし学びもしていない。神様ごめんなさい。もうお酒もやめまますから、このトラブルを、よい方向にしてください。」と祈りました。その日、店は大繁盛、「さすがが神様、祈りは聞かれる!」と調子にのってお酒を飲んだら気を失ってしまいました。

次の日から、アルコールを受け付けない体となり、神様は私がした約束をきっちり守ってくださいました。ハレルヤ! 博打も女遊びもお酒も必要がなくなる人生が自分にくるとは思いもよりませんでした。世の男性方! 幸せに暮らしたかったらクリスチャンに

なってください! 悪い習慣が嫌だと思っっている方! イエスさまに叫べばその声は聞かれます。私を変えられたのです。こんな奇跡はありません。

のぞみの会便り



二月四日のぞみの会はたぐさんの日本からのお客様を向かえました。日野原先生のハワイ講演に伴い日本から新老人の会の皆さん総勢四七名が訪問されました。礼拝堂でのメッセージの後、二階社交室でいつもののぞみの会のプログラムと一緒に楽しみました。賛美やエクササイズで心も体もほぐされて話も弾みました。新老人の会のフラダンスチームがとても素敵なフラを披露してくれました。ソロを踊られた九〇歳の女性をはじめ皆さん笑顔がとても輝いていました。つい、日本のお年よりは暗い、などと思ってしまうですが日本でもこんな風に素敵に年齢を重ねられている方がいることを嬉しく思いました。後から、黒田先生から席の周りの方の中には非常に地位の高い方をはじめ総合病院を経営するお医者様など普通なら一緒に席に座り、食事をするチャンスなどないような方々いらしたことを聞きました。最後はそんな皆様とも一緒に手をつなぎ大きな輪になりともに賛美できたことを神様に感謝しました。クリスチャンでない方がほとんどだという新老人の会の皆様、のぞみの会に参加したことによって神様の愛に気がつくことができるように願っています。(直)

のぞみの会 毎週水・金 朝九時〜十二時

編集後記

実は私の家の隣にはクリスチャン教会があります。早朝礼拝に参加して朝市に寄って家に戻るとちょうど九時の礼拝が始まるのですが、知っている賛美歌や聖歌が流れるとつい口ずさんでいます。時には早朝礼拝で歌ったばかりの曲が流れてくることもあり、そんなときはなんだか嬉しくなります。神様の与えてくれたこの住環境に感謝する瞬間です。

大塩 直子

玉寄朝勝という男性の救いのために、いつ祈りをスタートしたかは覚えていません。しかし確かなことは、私が祈るよりもずっと前から多くの方が主人のために祈って下さっていたと確信する今回の受洗劇でした。何よりも天の御国がそれを一番喜んで下さっていることに心から感謝し、これからの歩みを主に期待します。

玉寄 朋子

こつそりと、私にメールされる天主閣の原稿を先読みするのが家の主人です。朝いきなり「ゆきちゃん、読んだ? すごくいいよ勝さん!」と言われ、勝さんがお酒を飲めない体になったことを聞かされ、「すごくいい! 私も甘いものを受け付けない体になればいいな。」と思いつながら、そうされないのは今のままがいいと神様が思っておられるから? そういえば、問題があっても「それでいい」と成長の機会を与えてくださる神様は、いつも最高のものを与えてくださいます。いつも感謝しています。

松浦由紀子

責任者 黒田 朔
編集者 松浦 由紀子・大塩直子
玉寄 朋子